

セクション名は具体的な作業を示しています。

このセクションで使っている関数名を列挙しています。

セクションごとに機能を順番に解説しています。

セクションの解説内容のまとめを表示しています。

関数を使って実現できることを示しています。

章が深しやすいようにセクションの分類を表示しています。

関数の書式と引数（詳しくはP.4参照）、概要を解説しています。

168

具体的な操作手順を紹介します。

実際にセルに入力する数式を表示しています（詳しくはP.5参照）。

番号付きの記述で操作の順番が一目瞭然です。

重要な補足説明や応用操作を解説しています。

169

関数の解説例

本書では、関数の書式と使い方を以下のように解説しています。書式で解説した引数の色と、例として紹介した数式の引数の色が対応しています(ただし、関数をネストしている数式では、色が異なる場合があります)。

対応バージョン

SECTION

067

文字列処理

対応バージョン

365201920162013

複数セルの文字列を連結して定型文を作成する

CONCAT

セクションの中でメインに紹介している関数が利用できるExcelのバージョンを示しています。

書式説明

紹介している関数で利用できないExcelのバージョンを示しています。

関数の書式を表しています。引数名に[]が付いている場合は、その引数は省略可能です。引数は、1つ目から順に色分けして示しています。

5章

文字列処理

×2016

×2013

書式

=CONCAT(テキスト1,[テキスト2],...)

引数

テキスト1

必須

連結したい文字列、セル参照

テキスト2

任意

連結したい文字列、セル参照。以降、複数指定可能

説明

CONCAT関数は、引数に指定した文字列をすべて連結した結果を返します。文字列の指定は、1つの文字列/セルや、セル範囲などが指定可能です。

それぞれの引数についての解説です。「」で囲んだ名前は、ほかの引数を指しています。

関数の役割や使い方についての解説です。

操作説明

品名が未入力の場合にエラーが表示されないようにする

A列の「品名」が未入力の場合、VLOOKUP関数(P.222参照)が入力されているB列と、C列との計算結果が表示されているD列にエラーが表示されます。B列とD列をIFERROR関数を使った数式に修正し、A列が未入力の行に空欄が表示されるようにします。

1	A	B	C	D	E	F
2	品名	単価	数量	金額		
3	A4ノート A罫	240	2	480		
4	A4ノート B罫	240	2	480		
5	油性ボールペン (黒)	150	2	300		
6						
7		#N/A		#N/A		
8		#N/A		#N/A		
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						

=IFERROR(VLOOKUP(A6,商品リスト,2,FALSE),"")

値 エラーの場合の値

1 セルB6に入力されている数式を修正してIFERROR関数を入力し、引数「値」にはもとの式、引数「エラーの場合の値」に「」を指定します。「エラーが起きた場合、空白を表示する」という意味になります。

2 同様に、IFERROR関数を利用してセルD6の式も修正します。

実際にセルに入力する数式を表しています。文字の色は、関数の引数と対応しています。ただし、関数をネストしている場合は、数式の下側に記述した引数名と色を揃えています。

=IFERROR(VLOOKUP(A6,商品リスト,2,FALSE),"")

値 エラーの場合の値

IFERROR関数の引数名と対応する箇所

値 VLOOKUP(A6,商品,リスト,2,FALSE)

エラーの場合の値 ""

008

関数の基本

複数の数式を
まとめてコピーする

請求書などで「1行ごとに単価×個数の計算結果を表示する」という数式を作りたいときは、コピー機能を使うと大幅に手間を軽減できます。コピー時に、数式内のセル参照がどのように変化していくかを、しっかり把握しておきましょう。

Before

1	A	B	C	D	E
2	製品名	単価	販売数	売上額	売上構成比
3	製品A	46,700	86	4,016,200	
4	製品B	38,200	124		
5	製品C	29,600	146		
6	製品D	26,000	54		
7	製品E	18,900	61		
8	合計				

数式が入力されたセルをコピーすると

After

1	A	B	C	D	E
2	製品名	単価	販売数	売上額	売上構成比
3	製品A	46,700	86	4,016,200	
4	製品B	38,200	124	4,736,800	
5	製品C	29,600	146	4,321,600	
6	製品D	26,000	54	1,404,000	
7	製品E	18,900	61	1,152,900	
8	合計				

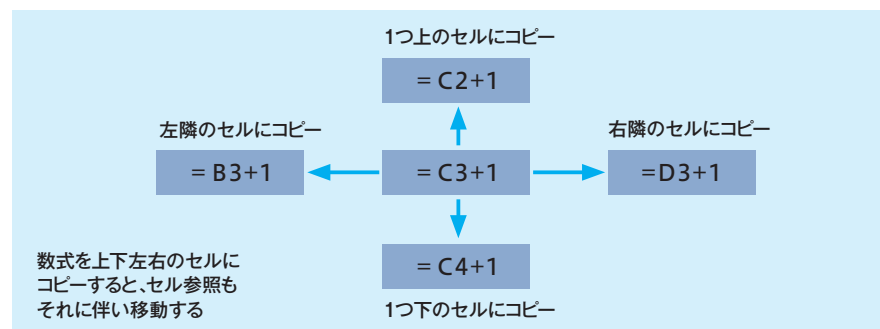
参照先が自動的に調整された数式が複製される

数式のコピーによる参照先の変化

数式を入力したセルをほかのセルにコピーすると、数式内のセル参照も自動で更新されます。関数の場合も同様にセル参照が自動で更新されます。1行ごと・1列ごとに同じ計算をする表を作るときは、積極的に活用しましょう。

なお、Excel 2019以降に搭載されたスピル機能を使うと、配列と呼ばれる特別な表の数式をコピーできます(P.318 参照)。

▶ 数式のコピーによるセル参照の変化



数式が入力されているセルをコピーする

ここでは、「売上額」列に「単価×販売数」の計算結果を表示します。セルD2に入力する数式は「=B2*C2」と簡単なものですが、同じような数式をセルD3～D6まで入力しては非効率的です。

セルD2に数式を入力し、セルをコピーして下の行のセルに貼り付けると、参照先が自動で1つずつ下にずれた状態で数式が複製されます。

D2

1	A	B	C	D	E
2	製品名	単価	販売数	売上額	売上構成比
3	製品A	46,700	86	4,016,200	
4	製品B	38,200	124		
5	製品C	29,600	146		
6	製品D	26,000	54		
7	製品E	18,900	61		
8	合計				

① 数式「=B2*C2」が入力されているセルD2をクリックします。

② マウスポインターをセルの右下のフィルハンドル■の上へ移動し、+になったら下方向へドラッグします。

③ セルD6まで移動して、マウスボタンを離します。

=B2*C2

D2

1	A	B	C	D	E
2	製品名	単価	販売数	売上額	売上構成比
3	製品A	46,700	86	4,016,200	
4	製品B	38,200	124	4,736,800	
5	製品C	29,600	146	4,321,600	
6	製品D	26,000	54	1,404,000	
7	製品E	18,900	61	1,152,900	
8	合計				

④ 数式がコピーされ、参照先が自動的に変化します。セルD2の書式もコピーされたため、セルD6の下辺の野線が消えています。

⑤ <オートフィルオプション>をクリックします。

=B6*C6

D2

1	A	B	C	D	E	F	G
2	製品名	単価	販売数	売上額	売上構成比		
3	製品A	46,700	86	4,016,200			
4	製品B	38,200	124	4,736,800			
5	製品C	29,600	146	4,321,600			
6	製品D	26,000	54	1,404,000			
7	製品E	18,900	61	1,152,900			
8	合計						

⑥ <書式なしコピー (フィル)>をクリックすると、セルの書式はコピーされず、セルに入力されている数式だけがコピーされます。

MEMO キーボードで操作する

キーボードだけで操作するには、コピー元のセルを選択して[Ctrl]+[C]を押し、貼り付け先のセルを選択して[Ctrl]+[Alt]+[V]キーを押し、[V]キーを押して[Enter]を押します。

売上表の途中に「小計」行を挿入する

SUBTOTAL

SUBTOTAL関数は、指定範囲のデータを指定した方法で計算する関数です。小計欄のある集計表では、SUM関数を使って小計ごとに計算できますが、計算する範囲の指定などに手間がかかります。SUBTOTAL関数を使うと、効率的に表を作成できます。

Before		小計欄のある集計表から	After		小計と総計を計算する
1	月	種類	金額 (万円)		
2		ゴルフ用品	470		
3	4月	テニス用品	606		
4		その他	356		
5		小計	1,432		
6		ゴルフ用品	470		
7	5月	テニス用品	606		
8		その他	356		
9		小計	1,432		
10		総計	2,864		
11					

書式 **=SUBTOTAL (集計方法, 範囲1, [範囲2], ...)**

引数	集計方法	必須	1~11または101~111の数字で、計算に使用する関数を指定
	範囲1	必須	集計に使うセル範囲
	範囲2	任意	集計に使うセル範囲。最大で254個

説明 SUBTOTAL関数は、指定したセル範囲のデータを、指定した方法で集計する関数です。計算に使うセル範囲にほかのSUBTOTAL関数が入力されていると、そのセルは計算の対象に含まれません。そのため、総計を求める場合に、計算の対象となるすべてのセル範囲を指定すれば正しい計算結果が表示されます。ただし、小計欄にSUM関数などを使っている場合は、総計欄にSUBTOTAL関数を使っても小計欄の合計値が計算に含まれてしまうので注意が必要です。また、集計方法に1~11を指定すると、行の表示/非表示にかかわらず、行の値が集計されます。101~111を指定すると、非表示にした行の値は集計されません。表示されている行だけを集計したい場合は、これらの集計方法を指定します。

なお、SUBTOTAL関数は縦方向の範囲を集計する関数です。横方向のセル範囲を集計する場合は、列を非表示にしても計算結果は変わりません。

引数「集計方法」を指定する

SUBTOTAL関数では、引数「集計方法」で集計方法を指定します。集計方法は、以下の通りです。なお、101~111の値を指定した場合は、非表示にした行の値は集計されません。ただし、横方向に集計している場合は、列を非表示にしている場合でも集計されるので注意が必要です。

集計方法	関数	意味
1 または 101	AVERAGE	平均値を求める
2 または 102	COUNT	数値の個数を求める
3 または 103	COUNTA	データの個数を求める
4 または 104	MAX	最大値を求める
5 または 105	MIN	最小値を求める
6 または 106	PRODUCT	積を求める
7 または 108	STDEV.S	不偏標準偏差を求める
8 または 108	STDEV.P	標本標準偏差を求める
9 または 109	SUM	合計値を求める
10 または 110	VAR.S	不偏分散を求める
11 または 111	VAR.P	標本分散を求める

集計方法は、SUBTOTAL関数を入力するときに直接入力するほか、集計方法の一覧から選択することもできます。

	A	B	C	D	E	F
1	月	種類	金額 (万円)			
2		ゴルフ用品	470			
3	4月	テニス用品	606			
4		その他	356			
5		小計	=SUBTOTAL(			
6		ゴルフ用品	SUBTOTAL(集計方法, 参照1, ...)			
7	5月	テニス用品				
8		その他				
9		小計				
10		総計				
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						

集計方法を選択する

日程表の土日を グレーで塗りつぶす

日程表などでは、休日を色分けすると表がわかりやすくなります。ここでは、WEEKDAY関数と条件付き書式を組み合わせ、日付が土日の場合はセルをグレーで塗りつぶします。WEEKDAY関数の書式については、P.98を参照してください。

Before

1	2	3	4
サンプル・システム作成	日付	曜日	作業
6月1日	火	打ち合わせ・要件洗い出し	
6月2日	水	↓	
6月3日	木	設計	
6月4日	金	↓	
6月5日	土		
6月6日	日		
6月7日	月	↓	
6月8日	火	↓	
6月9日	水	↓	
6月10日	木	↓	
6月11日	金	↓	
6月12日	土		
6月13日	日		
6月14日	月	↓	

After

1	2	3	4
サンプル・システム作成	日付	曜日	作業
6月1日	火	打ち合わせ・要件洗い出し	
6月2日	水	↓	
6月3日	木	設計	
6月4日	金	↓	
6月5日	土		
6月6日	日		
6月7日	月	↓	
6月8日	火	↓	
6月9日	水	↓	
6月10日	木	↓	
6月11日	金	↓	
6月12日	土		
6月13日	日		
6月14日	月	↓	

日程表の

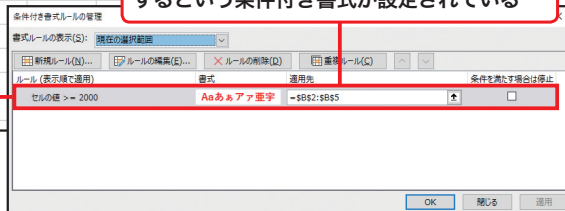
土日のセル色を変える

条件付き書式

「条件付き書式」とは、特定の条件に一致するセルの書式を設定する機能です。たとえば、「セルに入力されている数値が100以上の場合、セルの背景色を変更する」「セルに日と入力されている場合、文字色を変更する」といったことができます。条件には、数式を指定することもできます。

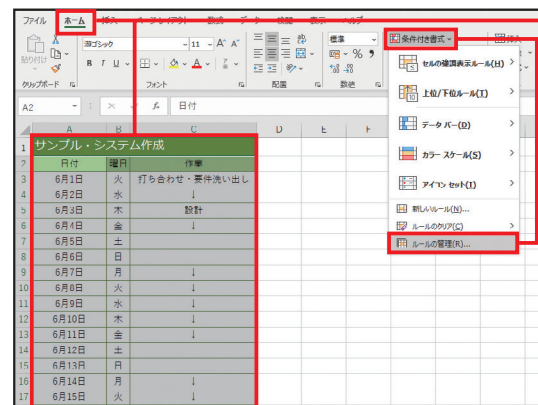
1	2	3	4	5
	売上高 (単位: 千円)			
2	新宿店	2,346		
3	池袋店	1,899		
4	渋谷店	2,043		
5	吉祥寺店	1,980		
6				
7				

数値が2000以上の場合、太字、赤色で表示
するという条件付き書式が設定されている



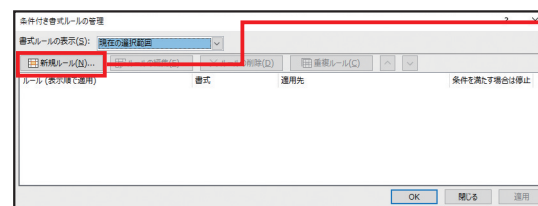
土日をグレーで塗りつぶす

日程表に条件付き書式を設定し、土日の行をグレーで塗りつぶします。考え方としては、WEEKDAY関数で日付を調べ、計算結果が「7=土曜日」または「1=日曜日」という条件を満たす場合、セルをグレーで塗りつぶす、ということになります。

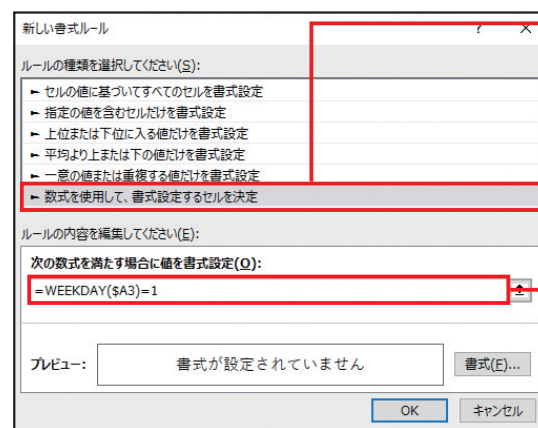


① 条件付き書式を設定するセル範囲 A2:C32 を選択し、<ホーム>タブをクリックします。

② <条件付き書式>をクリックして<ルールの管理>をクリックします。



③ <条件付き書式ルール>の管理>ダイアログボックスが表示されます。<新規ルール>をクリックします。



④ <新しい書式ルール>ダイアログボックスが表示されます。<数式を使用して、書式設定するセルを決定>をクリックして、

⑤ <次の数式を満たす場合に値を書式設定>に「= WEEKDAY (\$A3) = 1」と入力し、<書式>をクリックします。

MEMO 列を絶対参照で指定する

日付が入力されているA列は変更しないので、列を絶対参照で指定します。また、WEEKDAY関数は日付が日曜日の場合「1」を返すので、「計算結果が1の場合」としています。

045

論理と条件

条件によって計算方法を切り替える

IF

IF関数は論理関数の1つで、条件を表す論理式が真 (TRUE) の場合と偽 (FALSE) の場合に異なる計算結果を表示します。「一定金額以上の場合は○と表示する」「特定の商品の金額を割引く」といったことができます。

Before

	A	B
1	名前	入場券の種類
2	大谷純	フリーパス
3	落合花菜	入場券のみ
4	川島穂	フリーパス
5	坂田佳子	フリーパス
6	二宮浩二	フリーパス
7	宮崎梨菜	入場券のみ
8	安田健	フリーパス
9	山口葉月	入場券のみ
10		
11		
12		
13		

入場券の種類をもとに

After

	B	C
	入場券の種類	費用
	フリーパス	6000
	入場券のみ	800
	フリーパス	6000
	フリーパス	6000
	フリーパス	6000
	入場券のみ	800
	フリーパス	6000
	入場券のみ	800

費用を表示する

書式 =IF(論理式,[真の場合],[偽の場合])

引数	論理式	必須	条件を判定する式
	真の場合	必須	論理式の結果が「真」の場合の処理
	偽の場合	任意	論理式の結果が「偽」の場合の処理

説明 IF関数は、「論理式」の結果が「真」か「偽」かによって、別の値を表示できます。「真」の場合には「真の場合」に指定した値や式の結果が、「偽」の場合には「偽の場合」に指定した値や式の結果が表示されます。

論理式の結果に応じて表示する値を変更する

ここでは、入場券の種類に応じて費用の表示を変更します。SUMIF関数(P.62参照)やCOUNTIF関数(P.70参照)を使っても条件に一致する数値を集計できますが、IF関数を使うと、条件に応じて「文字を表示する」「特定の計算をする」など、集計以外の処理も可能です。

	A	B	C	D	E	F
1	名前	入場券の種類	費用			
2	大谷純	フリーパス	=IF(B2="フリーパス",6000,800)			
3	落合花菜	入場券のみ				
4	川島穂	フリーパス				
5	坂田佳子	フリーパス				
6	二宮浩二	フリーパス				
7	宮崎梨菜	入場券のみ				
8	安田健	フリーパス				
9	山口葉月	入場券のみ				
10						
11			=IF(B2<="フリーパス",6000,800)			
12			論理式	真の場合	偽の場合	
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						

① セルC2にIF関数を入力し、引数「論理式」に「B2="フリーパス"」、引数「真の場合」に「6000」、引数「偽の場合」に「800」を指定します。「セルB2に入力されているデータがフリーパスの場合は6000、そうでない場合は800を表示する」という意味になります。

STEP UP

応用例 条件に一致する場合に計算する

IF関数では、「真の場合」や「偽の場合」に数式を指定することもできます。ここでは、会員の料金を10%引きで表示します。考え方としては、「会員」列に「○」が表示されている参加者は、フリーパス料金「6000」に0.9を乗算した計算結果を表示します。

	A	B	C	D	E	F	G
1	フリーパス料金		¥6,000				
2							
3	参加者	会員	費用				
4	大谷純	○	=IF(B4="○",\$B\$1*0.9,\$B\$1)				
5	落合花菜		¥6,000				
6	川島穂		¥6,000				
7	坂田佳子	○	¥5,400				
8	二宮浩二		¥6,000				
9							
10			=IF(B4="○",\$B\$1*0.9,\$B\$1)				
11			論理式	真の場合	偽の場合		
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							

① セルC4にIF関数を入力し、引数「論理式」に「B4="○"」、引数「真の場合」に「\$B\$1*0.9」、引数「偽の場合」に「\$B\$1」を指定します。「セルB4に入力されているデータが○の場合は、セルB1に入力されている数値6000に0.9を掛ける、そうでない場合はセルB1に入力されている数値6000をそのまま表示する」という意味になります。

文字列置換を使って 間違いを瞬時に直す

表から特定の文字列を任意の文字列に置換するには、SUBSTITUTE関数を利用します。置き換えたい文字列と置き換え後の文字列を指定することで、複数の文字列を一括で置換できます。

Before

1	A	B	C	D	E	F	G
2	ID	使用ソフト	修正後				
3	1	Excel 2019					
4	2	Excel 2016					
5	3	Excel 2013					
6	4	Excel 2010					

使用ソフト名の
「Excel」を

After

1	A	B	C	D	E	F	G
2	ID	使用ソフト	修正後				
3	1	Excel 2019	エクセル 2019				
4	2	Excel 2016	エクセル 2016				
5	3	Excel 2013	エクセル 2013				
6	4	Excel 2010	エクセル 2010				

「エクセル」に置換する

書式 =SUBSTITUTE(文字列,検索文字列,置換文字列,[置換対象])

引数	文字列	必須	置換を適用したい文字列、セル参照
	検索文字列	必須	置換対象となる文字列
	置換文字列	必須	置換後に表示する文字列
	置換対象	任意	置換候補が複数ある場合の対象を指定する数値

説明 SUBSTITUTE関数は、「文字列」を「検索文字列」で検索し、その文字列を「置換文字列」に置き換えます。「文字列」に当てはまる対象が複数ある場合、いずれかのみを置換したい場合には「置換対象」に数値を指定します。「1」を指定すると、1つ目の検索文字列だけ置換し、「2」を指定すると2つ目だけ置換されます。省略した場合はすべてが置換されます。

文字列内の単語を置換する

SUBSTITUTE関数を使って、文字列内の単語「Excel」を「エクセル」に置換します。

1	A	B	C	D	E	F
2	ID	使用ソフト	修正後			
3	1	Excel 2019	=SUBSTITUTE(B2,"Excel","エクセル")			
4	2	Excel 2016	エクセル 2016			
5	3	Excel 2013	エクセル 2013			
6	4	Excel 2010	エクセル 2010			
7	5	Microsoft 365	Microsoft 365			
8	6	excel 2019	excel 2019			
9	7	excel 2016	excel 2016			
10	8	excel 2013	excel 2013			

=SUBSTITUTE(B2,"Excel","エクセル")
文字列 検索文字列 置換文字列

① セル C2 に SUBSTITUTE 関数を入力します。引数「文字列」にセル B2 を指定し、引数「検索文字列」に "Excel"、引数「置換文字列」に "エクセル" を指定します。B 列に入力されている「Excel」が「エクセル」に置換されます。

STEP UP 応用例 文字列内の複数の単語を置換する

上の例では「Excel」のみ置換対象となっていますが、「excel」も同時に「エクセル」に置換したい場合、SUBSTITUTE関数を入れ子にすれば、一度に複数の文字列の置換が行えます。

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
2	ID	使用ソフト	修正後								
3	1	Excel 2019	=SUBSTITUTE(SUBSTITUTE(B2,"Excel","エクセル"),"excel","エクセル")								
4	2	Excel 2016	エクセル 2016								
5	3	Excel 2013	エクセル 2013								
6	4	Excel 2010	エクセル 2010								
7	5	Microsoft 365	Microsoft 365								
8	6	excel 2019	エクセル 2019								
9	7	excel 2016	エクセル 2016								
10	8	excel 2013	エクセル 2013								

=SUBSTITUTE(SUBSTITUTE(B2,"Excel","エクセル"),"excel","エクセル")

① セル C2 に = SUBSTITUTE (SUBSTITUTE (B2,"Excel","エクセル"),"excel","エクセル") と入力します。「Excel」を「エクセル」に置換する処理と、「excel」を「エクセル」に置換する処理を同時に行います。

COLUMN

「置換」機能とは何が違う？

文字列の置換は、関数を使わずに「置換」機能で行うこともできます。ただし、あとからデータが加えられる場合や、元の文字列を残しておいたほうがよい場合などは、SUBSTITUTE関数を使うのが適しています。

テーブルって何? LOOKUP系関数の基本をマスターする

テーブルは、データを意味のあるまとまりとして扱う際の基本の形式です。本章ではテーブル形式のデータから、目的の値を取り出したり集計したりする際に便利な関数を紹介します。

検索に使うテーブル形式の表の基本ルール

最初に、「テーブル形式」がどのようなものか見ていきましょう。テーブル形式の表とは、次のような表のことをいいます。どうしてこのような形式でデータを扱うのでしょうか。順を追って考えてみましょう。

1	ID	商品	価格
2	1	A4 ノート	240
3	2	A5 ノート	200
4	3	油性ボールペン	140
5	4	ゲルインキボールペン	150
6	5	定規	
7	6	付箋 (大)	
8	7	付箋 (小)	360
9	8	鉛筆	
10	9	ガムテープ	

1行目は見出し

行ごとにひとまとまりのデータ

列ごとに同じ要素のデータ

▶ 行ごとにひとまとまりのデータ

まず、個々のセルへとデータを入力するとします。何もルールを定めず、ただ入力しただけでは、セル1つひとつごとにバラバラに入力されたデータです。そこで、「1つのまとまりのデータは、同じ行に入力する」というルールでデータを入力することにします。たとえば、商品のデータを扱いたい場合、1つの商品のデータは1つの行にまとめて入力します。ほかの行に入力してはいけません。こういったルールで入力すると、商品が10個あった場合には、10行分のデータになりますね。

▶ 列ごとに同じ要素のデータ

次に、複数行にデータを入力する際には、「同じ要素のデータは、同じ列に入力する」というルールで入力します。上の例でいえば、商品の価格のデータはC列に入力します。行ごとにB列やC列などバラバラな位置に入力してはいけません。

▶ 1行目は見出し

こういったルールで入力する場合、1行目に「その列のデータは、どの要素のデータなのか」を示す見出しがあるとわかりやすくなります。また、テーブル形式で記述してあるデータの中から、目的のものを取り出すことを「表引き」と呼びます。

テーブル形式でない表は意図した通りに動かない

並べ替え機能や集計機能、ピボットテーブル、そして関数など、Excelの便利な機能の多くは「データがテーブル形式であること」を前提に作られています。それはつまり、「テーブル形式ではないデータは意図通りには動かない」ということです。

テーブル形式ではないデータの例を、次に示します。「分類」列は「ノート」と「ボールペン」の2種類の分類を表す意図の列ですが、分類ごとに一番上の行しか入力されていません。

「テーブル」ではない例

	A	B	C
1			
2	分類	商品	価格
3	ノート	A4 ノート	240
4		A5 ノート	200
5	ボールペン	油性ボールペン	140
6		ゲルインキボールペン	150
7			
8			

4行目、6行目のデータは「分類」列の値を持たないデータになる

表としては見やすいものの、これでは4行目、6行目のデータは「分類が未入力 of データ」とみなされます。テーブルとして扱いたいのであれば、以下のように修正しましょう。

「テーブル」に修正した例

	E	F	G	H
1				
2	分類	商品	価格	
3	ノート	A4 ノート	240	
4	ノート	A5 ノート	200	
5	ボールペン	油性ボールペン	140	
6	ボールペン	ゲルインキボールペン	150	
7				
8				

すべての行の「分類」列に値を入れる

すべての行の「分類」列に値を入れることで、その行だけで独立して意味が通るデータの形式になります。

COLUMN

結合セルを使わない

テーブルとして扱いたいデータを入力する際の注意点として、「結合セルを使わない」というものもあります。結合セルを使うことで、「行ごと」「列ごと」に意味のある形式ではなくなってしまうためです。最終的なレポートなどの段階で結合セルを利用して見やすくするのは問題ありませんが、集計・分析の段階では利用しないことが推奨されます。

マクロ不要! Excelをデータベースのように使う

DGET

DGET関数などの各種データベース関数を利用すると、シート上に記述した条件式を満たすデータを表引き・集計可能です。記述方法はやや複雑ですが、複数列に渡る条件を細かく指定できるため、一度覚えてしまえば便利な仕組みです。

Before

1	対象テーブル			
2	日付	担当	売上	
3	4月3日	宮崎	59,000	
4	4月6日	増田	10,000	
5	4月8日	鈴木	39,000	
6	4月12日	増田	24,000	
7	4月22日	宮崎	70,000	
8	4月23日	増田	52,000	
9	4月23日	宮崎	30,000	
10	4月28日	増田	43,000	

売上表のテーブルから

After

1	条件式: 担当が「増田」かつ日付が「4/23」			
2	担当	日付		
3	=増田	=2021/4/23		
4	条件式で「売上」列をDGETした結果			
5	売上			
6	52,000			

条件式を満たす値を表引きする

書式 **=DGET(データベース,フィールド,条件)**

引数 **データベース** 必須 表引きするテーブル形式のセル範囲
フィールド 必須 対象の列見出し名、または、列番号
条件 必須 条件式を記述したセル範囲

説明 DGET関数は「データベース」のセル範囲内の「フィールド」列から、「条件」を満たす値を取得します。満たす値がない場合は#VALUE!エラーを、複数の候補が存在する場合は、#NUM!エラーを返します。

シート上に条件式を記述して表引きする

DGET関数はデータベース関数の1つです。データベース関数を使うと、テーブル形式のセル範囲から、シート上に記述した条件式を満たすデータを取り出したり、集計したりすることができます。

たとえば、セル範囲A2:C10から、セル範囲E2:F3に記述した条件式で「売上」列の値を表引きするには、次のようにE7セルにDGET関数を入力します。

1	対象テーブル						
2	日付	担当	売上	条件式: 担当が「増田」かつ日付が「4/23」	担当	日付	
3	4月3日	宮崎	59,000		=増田	=2021/4/23	
4	4月6日	増田	10,000				
5	4月8日	鈴木	39,000				
6	4月12日	増田	24,000				
7	4月22日	宮崎	70,000				
8	4月23日	増田	52,000				
9	4月23日	宮崎	30,000				
10	4月28日	増田	43,000				

① セル範囲E2:F3にテーブル形式のセル範囲の「列見出し」と「条件式」をセットで記述します。条件式を「=」から入力する際、数式として判断されないよう、セルの表示形式を「文字列」にするか、先頭に「」（アポストロフ）を付けて入力します。

② セルE7にDGET関数を入力し、引数「データベース」にセル範囲A2:C10、引数「フィールド」に「売上」、引数「条件」にセル範囲E2:F3を指定します。

COLUMN

OR条件式とAND条件式

同じ列見出しの行方向に複数の条件式を列記すると、各条件式のいずれかを満たす条件式（OR条件式）となります。また、列見出しと条件式のセットを列方向に列記すると、各条件式のすべてを満たす条件式（AND条件式）となります。

1	A	B	C	D	E
2		担当			
3		=増田			
4		=星野			
5					
6		担当	日付		
7		=増田	=2021/4/23		
8					

「担当」が「増田」もしくは「星野」

「担当」が「増田」かつ「日付」が「2021/4/23」

元データとは別に 並べ替えたデータを表示する

SORT

SORTBY

日々入力するデータや、抽出したデータを、常に見やすい順序で並べ替えて表示したい場合には、SORT関数を利用します。また、テーブル形式のデータを、複数の列を基準に並べ替えたい場合には、SORTBY関数が便利です。

Before

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
売上明細	ID	担当	商品名	価格	数量	売上										
1001	増田	のり	240	20	4,800											
1002	宮崎	消しゴム	90	30	2,700											
1003	増田	コンパス	350	10	3,500											
1004	星野	消しゴム	90	15	1,350											
1005	増田	消しゴム	90	20	1,800											
1006	星野	修正ペン	180	40	7,200											
1007	星野	修正ペン	180	30	5,400											
1008	宮崎	コンパス	350	10	3,500											
1009	宮崎	消しゴム	90	60	5,400											

売上明細を

After

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
売上順	ID	担当	商品名	価格	数量	売上										
1006	星野	修正ペン	180	40	7,200											
1007	星野	修正ペン	180	30	5,400											
1009	宮崎	消しゴム	90	60	5,400											
1001	増田	のり	240	20	4,800											
1003	増田	コンパス	350	10	3,500											
1008	宮崎	コンパス	350	10	3,500											
1002	宮崎	消しゴム	90	30	2,700											
1005	増田	消しゴム	90	20	1,800											
1004	星野	消しゴム	90	15	1,350											

売上順に並べ替えて
別のセルに表示する

×2019 ×2016 ×2013

書式 **=SORT(配列,[基準位置],[並べ替え方法],[方向])**

引数	配列	必須	並べ替えたいセル範囲、配列
	基準位置	任意	並べ替えの基準となる位置の番号。先頭が「1」
	並べ替え方法	任意	並べ替えの方法。昇順(小さい順)が「1」、降順(大きい順)が「-1」。省略した場合は昇順。
	方向	任意	並べ替えの方向。行方向が「TRUE」、列方向が「FALSE」。省略した場合は行方向。

説明

SORT関数は、「配列」を並べ替えた結果を返します。「方向」に指定した行、または列方向に、「基準位置」に指定した位置の行、または列を基準として、「並べ替え方法」で指定した順に並べ替えます。

元データとは別に計算結果を並べ替えて表示する

売上明細のデータを、「売上」列を基準に並べ替えます。SORT関数を入力すると、スピルの仕組みで並べ替えた結果が表示されます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
売上明細	ID	担当	商品名	価格	数量	売上					
1001	増田	のり	240	20	4,800						
1002	宮崎	消しゴム	90	30	2,700						
1003	増田	コンパス	350	10	3,500						
1004	星野	消しゴム	90	15	1,350						
1005	増田	消しゴム	90	20	1,800						
1006	星野	修正ペン	180	40	7,200						
1007	星野	修正ペン	180	30	5,400						
1008	宮崎	コンパス	350	10	3,500						
1009	宮崎	消しゴム	90	60	5,400						

=SORT(A3:F11,6,-1)

配列 基準位置 並べ替え方法

① セルH3にSORT関数を入力します。引数「配列」にセル範囲A3:F11を指定し、引数「基準位置」に6、引数「並べ替え方法」に「-1」を指定します。「売上明細の6列目(売上)を基準に大きい順に並べ替える」という意味になります。

STEP
UP

応用例 ほかの関数の結果を並べ替えて表示する

SORT関数は単体で使用するよりも、ほかの関数と組み合わせて利用する機会が多い関数です。たとえば、FILTER関数で任意の列のみのデータを抽出し、その結果を並べ替えるなどの用途があります。

次の例では、元のデータから「担当」「売上」列のみを抽出し、その結果を「売上」列順に並べ替えています。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
売上明細	ID	担当	商品名	価格	数量	売上					
1001	増田	のり	240	20	4,800						
1002	宮崎	消しゴム	90	30	2,700						
1003	増田	コンパス	350	10	3,500						
1004	星野	消しゴム	90	15	1,350						
1005	増田	消しゴム	90	20	1,800						
1006	星野	修正ペン	180	40	7,200						
1007	星野	修正ペン	180	30	5,400						
1008	宮崎	コンパス	350	10	3,500						
1009	宮崎	消しゴム	90	60	5,400						

=SORT(FILTER(A3:F11,(A2:F2=H2)+(A2:F2=I2)),2,-1)

配列 基準位置 並べ替え方法

① FILTER関数の結果を引数「配列」に指定し、「2列目」を「降順」に並べ替えます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
売上明細	ID	担当	商品名	価格	数量	売上					
1001	増田	のり	240	20	4,800						
1002	宮崎	消しゴム	90	30	2,700						
1003	増田	コンパス	350	10	3,500						
1004	星野	消しゴム	90	15	1,350						
1005	増田	消しゴム	90	20	1,800						
1006	星野	修正ペン	180	40	7,200						
1007	星野	修正ペン	180	30	5,400						
1008	宮崎	コンパス	350	10	3,500						
1009	宮崎	消しゴム	90	60	5,400						

② FILTER関数の結果が売上順に表示されます。